

2. 意思決定支援とは

意思決定支援における定義や基本的考え方

基本の3つの考え方 (理念・原則)

3つの考え方(基本理念・原則)

- **最善の利益(ベスト・インタレスト)**

代理代行決定に関する考え方

- **意思と選好に基づく最善の解釈**

代理代行決定～支援付き意思決定に関する考え方

- **本人から表出された意思・心からの希望(エクスプレス・ウィッシュ)**

素からの意思 / 支援付き意思決定に関する考え方

国連・障害者権利条約12条

- ✓ 1. 締約国は、障害のある人が、すべての場所において、法律の前に人として認められる権利を有することを再確認する。
- ✓ 2. 締約国は、障害のある人が生活のあらゆる側面において他の者との平等を基礎として法的能力を享有することを認める。
- ✓ 3. 締約国は、障害のある人がその法的能力の行使に当たり必要とする支援にアクセスすることができるようにするための適切な措置をとる。
- ✓ 4. 締約国は、国際人権法に従い、法的能力の行使に関連するすべての措置には濫用を防止するための適切かつ効果的な保護が含まれることを確保する。当該保護は、法的能力の行使に関連する措置が障害のある人の権利、意思及び選好を尊重すること、（後略）

国連・障害者権利委員会一般的意見1号（条約第12条）

”著しい努力がなされた後も、個人の意思と選好を決定することが実行可能ではない場合、「意思と選好に基づく最善の解釈」(best interpretation of will and preferences)が「最善の利益」の決定に取ってかわらなければならない。”これにより、第12条第4項に従い、個人の権利、意思及び選好が尊重される。「最善の利益の原則は、成人に関しては、第12条に基づく保護措置ではない。障害のある人による、他の者との平等を基礎とした法的能力の権利の享有を確保するには、「意思と選好」のパラダイムが「最善の利益」のパラダイムに取ってかわらなければならない。（公益財団法人日本リハビリテーション協会訳）

※原文挿入は令和7年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修【意思決定支援コース】講師作成

優先順位による整列

表示された意思・心からの希望
(エクスプレス・ウィッシュ)



意思と選好に基づく最善の解釈



最善の利益
(ベスト・インタレスト)

(客観的)最善の利益 vs 本人の表出された意思・心からの希望

映像で学ぶ パート1

～【客観的最善の利益(良かれと思つての発想)】で
意思決定支援をしようとする?～

出典:

埼玉県立大学

平成29年 教育用e-learningコンテンツ

保健医療福祉学部 社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

小川孔美先生との協力により作成

最善の利益に基づく対応を考える

「客観的最善の利益」(ベスト・インタレスト)型視点に基づく意思決定支援の場合、以下の本人の意思に対してどのような対応の仕方になるか考えてみましょう。



1. 働きたい

あかねさん(自閉症)



2. ひとり暮らしを
してみたい

ゆうこさん(精神疾患)



3. もう一度
花を育ててみたい

お春さん(認知症:軽度)

支援付き意思決定 と 代理代行決定

項目	表出された意思、心からの意思 (エクスプレス・ウィッシュ)	意思と選好に基づく最善の 解釈	(客観的な)最善の利益 (ベスト・インタレスト)
本人を優越するか	しない	しない	優越する
意思の出所	本人から	本人から	周囲から
表出の意図	意図して表出	意図して／せず	---
解釈	許さない	解釈する	---

← 支援付き意思決定 ／ 代理代行決定 →

支援付き意思決定と代理代行決定の違い

厚生労働省「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」より

いわゆる『意思決定支援』

①表出された意思・心からの希望
(エクスプレス・ウィッシュ)



支援付き意思決定(の支援) = 本人が意思決定主体

②意思と選好に基づく最善の解釈



代理代行決定 = 第三者が意思決定主体

③最善の利益(ベスト・インタレスト)



「客観的最善の利益」に基づく「意思決定支援」では…本人意思が引っ張られる？

日常生活における意思決定とは

(作業的定義)



- ✓ 必ずしも法律行為に至らない
- ✓ 必ずしも重大な医療上の判断を求めない
- ✓ 時間に制限されない
- ✓ 意思の表明・表出および決定である

日常生活として基本的な生活習慣や活動参加に係る行為、すなわち食事、衣服の選択、外出、排泄、整容、入浴等基本習慣であるとか、あるいは余暇活動、障害福祉サービスの利用等であって、事実行為の要素が強い。

(3つのガイドラインから抜粋、編集)

法律や医療上の重大な意思決定と日常生活における意思決定の違い

法律・医療上の重大な判断

- 緊急性・期限:
期限が定められ、差し迫っていることが多い
- 責任の所在:
決定者の確定が必要(曖昧さが許されない)
- 修正の可否:
一度決定すると修正ややり直しが困難

日常生活における意思決定

- 柔軟な時間軸:
必ずしも「今すぐ」決める必要はない
- 修正・試行錯誤:
修正しながら本人の望む所へ行き着くことが重要
- 支援のあり方:
決定そのものより、「**よりよく決定できる**」手伝い

【支援者に求められる視点】

単なる代行ではなく、本人がより良い選択を積み重ねられるような環境を整えること。
私たち支援者自身も、状況に合わせて適切に変わっていく姿勢が重要。

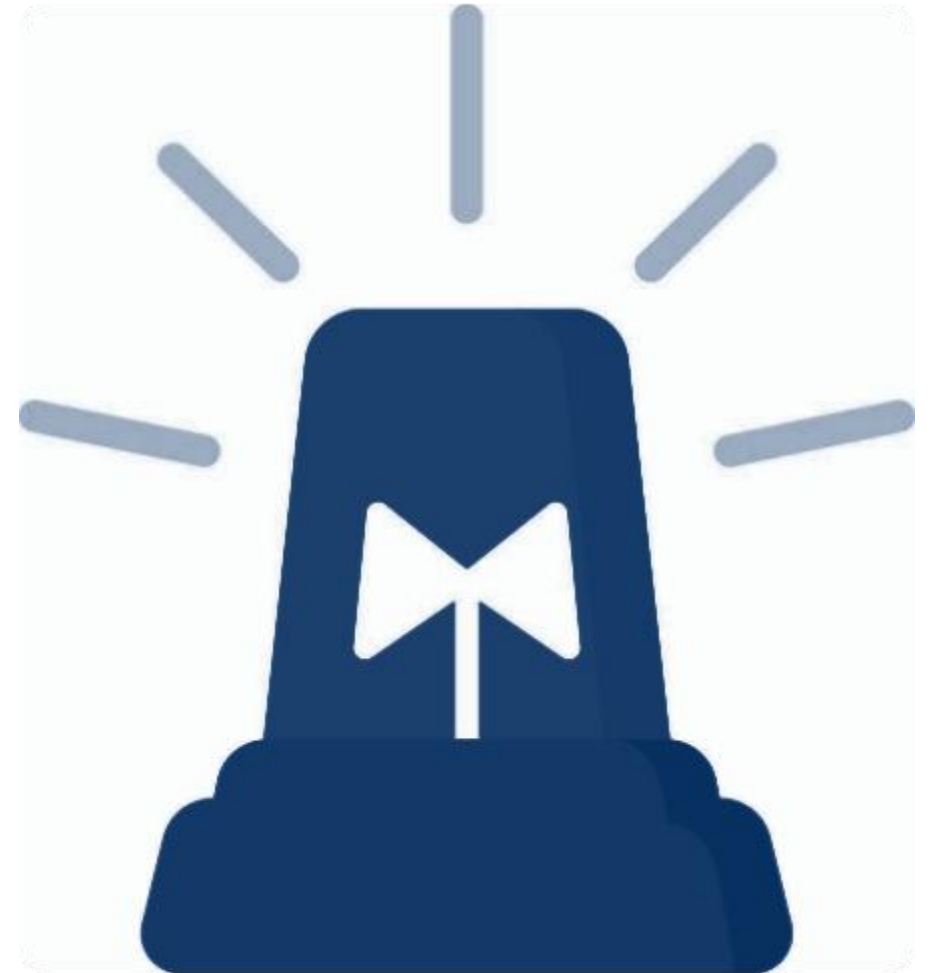
レスキューモデル

【状況】 解決の要請程度が高い、緊急性がある、時間的に限りがある(切迫性がある)、ような場合。

【目標】 本人の抱える課題や不適切な生活を改善し、相対的に安定した状態に至らせる。本人意思の確認や「最善の解釈」に必要な情報の収集に努力するが、必ずしも十分にはできない。

【支援】 結果、最善の利益を尊重もしくは配慮した、代理代行決定に至ることも多い。

→ 本人以外から始まる意思決定



エンパワメントモデル



【状況】 差し迫った解決要請ではなく、本人の意思決定がより高められることに目標がある。時間的に差し迫っていない。

【目標】 本人意思をより良く表出できるようにし、意思決定に関する自己効力感(セルフ・エフィカシー)を高める。自分で決めるプロセスを拡大しながら、より長期的な目標につなげていく。

【支援】 「表出された意思」や「意思と選好に基づく最善の解釈」を適用する。重要なのは、自己選択と管理(チョイス&コントロール)が高まるようにすること。意思決定支援の実施よりむしろ、意思決定支援の関わりかたを育てる(本人も支援者も育つ)。

→ 本人から始まる意思決定

日常生活における支援の接続

エンパワメントモデルの フェーズ (日常生活)

- “決めたいこと”に対応
- 決めやすい環境形成
- 自己効力感を高める
- 選好の収集

情報を反映



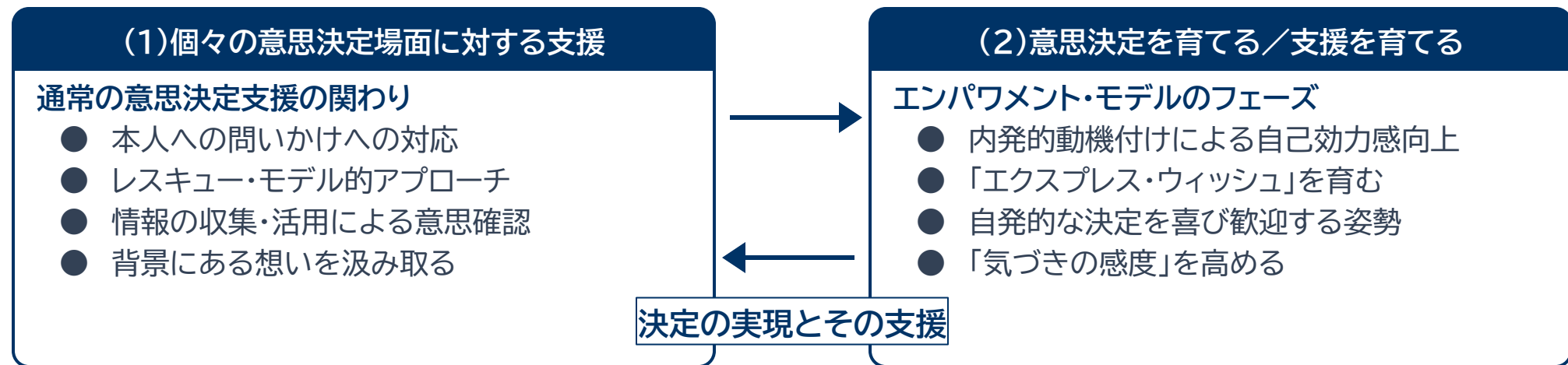
支援結果を考慮

レスキューモデルの フェーズ (非日常的な事態)

- “決めなければならない”事態に対応

※レスキューモデルの相で決められたことはその後の暮らしを変えるので、それに留意した支援を心がける

意思決定支援の層



日常生活における意思決定支援の土台となるもの

(3) 環境の整備

決定・表明しやすい土壌づくり

- 考え方や態度の共有(支援者間)
- 研修や協議の場(話し合いの場)の準備
- 「リスクの尊厳」についての学び合い
- 選好情報の地道な収集・蓄積・共有

(4) 豊かな経験

すべての関わりの基盤

- 多くの体験→選択肢を得る体験
- 決定と表出の良い経験
- 内発的動機づけ・自己効力感への配慮

経験によって「どうしたいか」を育む／周囲が大切にする

- ✓ 自分の中に選択肢を作る：経験がないのに「選べ」は無理。
- ✓ 好きなものを選ぶ経験：積み重ねが「好き」を作ること。
- ✓ 好みを周囲が大切にする：自分の「好き」がわかる環境・経験。
- ✓ 身だしなみは周囲が作る：支援の質が本人を形作る。

